

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	上下流域交流アートプロジェクト
事業主体 (連絡先)	僕らのルネッサンス実行委員会 長野県木曽郡王滝村 3016 常八
事業区分	(3)教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,085,613 円 (うち支援金 : 868,000 円)

#### 事業内容

61年前に通水した牧尾ダムと愛知用水。形骸化してしまった、その水の繋がりを再認識し、流域に住む人々が交流し文化(アート)を通じて繋がる意識を持てるプロジェクトを行った。愛知用水の最下流域である南知多町で毎年開催される「豊浜鯛祭り」の鯛神輿を南知多町の地元の方と協力しながら制作し、それを知多市、日進市、八百津町の地域で披露した。また同時に住民の手形を神輿に付けながら王滝村まで運搬した。運搬した鯛神輿は王滝村の御嶽神社参集殿で展示を行った。また小学校からスキー場まで歩いて運ぶ等のイベントも開催した。

この事業は石油由来の画材に頼ることなく地元で自生する植物で鯛神輿に使用する布の草木染めを行い、また流域全体から出る海洋ゴミ問題にも意識を向け王滝村村民が参加した交流事業で日進市の市民団体と協力し愛知池周辺のゴミ拾いなども行った。また、木曽川を含む伊勢湾流域のゴミが流れ着く答志島で回収した発泡スチロールを鯛神輿の歯に使用する等を行った。



【鯛神輿をスキー場に運んでいるところ】

#### 【目標・ねらい】

- ① 流域間の住民の繋がりを作る
- ② 村を元気にするイベントの開催
- ③ 地元の自然に目を向ける
- ④ 歴史の再確認

#### 事業効果

- ① 王滝村村民が下流域を巡り、地域住民同士の交流があった事に加え、鯛神輿を御嶽神社に奉納するイベントの際には下流域からも訪問があり、南知多町の参加者は地元の祭りの際に歌う伊勢音頭を披露してくれた。また王滝村村民は木曽踊りを教えた。お互いの文化を通じた繋がりを作る事ができた。
- ② 集客が難しく経営が困難なスキー場を村民から盛り上げていこうとオープン日に合わせて鯛神輿を小学校からスキー場までの道のり12kmを応援含め40名で運んだ。その様子はスキー場のSNSで中継され1000人近くに見られた。
- ③ 草木染めで王滝村に自生する植物について子ども達と学ぶ事ができた。また愛知池周辺のゴミ拾いを王滝村の村民と日進市の市民とで共同で行うことでゴミ問題に流域全体として着手できた。また海洋ゴミの発泡スチロールを使って鯛神輿を制作した。中部ESD拠点の中部大学・古澤礼太教授にも流域と生物多様性・祭りの切り口からSDGsの講義を開催してもらった。
- ④ 愛知用水と牧尾ダムの歴史を描いた絵巻を流域各地で披露し、説明をすることで多くの人と歴史について共有する事ができた。

**※自己評価【A】**

【理由】鯛神輿を運搬したことが上下流の交流だけで終わらなかった。このコロナでイベントが少なくなり、村の元気がなくなっていた時に鯛神輿が村の元気の象徴となった。またスキー場の運搬を行った事により村中心部の事業者とスキー場、村民が情報を共有するグループが出来た。

#### 今後の取り組み

今回できた強固な上下流の繋がりを今後も継続し事業を展開させたい。偶然にも知り合う事ができた下流域の人は地元の人々と多くの繋がりを持つ人であった為、王滝村村民で南知多町に行った際は煎餅屋さんや多くの土産屋さんを紹介してくれた。今後地元の事業者とも繋がっていく事で王滝村の事業者と繋ぎ、海産の物を王滝村で提供したり、村の祭りで出店を出してもらったりなど広げる事ができるのではないかと考えている。また鯛神輿の制作を今度は王滝村で行うなど、神輿作りから、村の小学校などを巻き込んで継続できたらと考えている。今回流域全体としてこの鯛神輿を王滝村まで遡上させる企画への関心度はとても高かった。それは名古屋大学の文化人類学を研究する教授や流域の市長・町長などがイベントに参加してくれた事からもそのように感じる。今年度このように注目を集める事ができた「流域」から地域・生活を考えるテーマを継続させ、流域全体として地域社会に対して今後も文化や美術で繋がる活動をしたいと考える。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある